

北部地方振興事務所 NNだよ！



大崎バルーンフェスティバル

「内川」が世界かんがい施設遺産に認定・登録

大崎市岩出山を流れる「内川」が平成28年11月8日にタイ王国チェンマイで開催された、国際かんがい排水委員会（ICID）国際執行理事会において、世界かんがい施設遺産に認定されました。

世界かんがい施設遺産とは、かんがいの歴史・発展を明らかにし、かんがい施設の適切な保全に資することを目的として2014年に創設された認定制度です。内川は、伊達政宗により人工的に築造された歴史的にも重要な水路で、大崎市古川、岩出山に農業用水を供給しており、宮城県初の登録となりました。



◀ (左) 内川
(右) 世界かんがい施設遺産登録証伝達式の様子



「大崎耕土」世界農業遺産 国内候補地の1次審査通過

平成28年11月24日、「『大崎耕土』の巧みな水管理による水田農業システム」が東北で唯一、世界農業遺産・国内候補地の一次審査を通過しました。世界農業遺産とは、食料の安定確保を目指す国際組織国連食糧農業機関 FAO が、衰退しつつある伝統的な農業、文化風習、生物多様性などの保全を目的に2002年に開始した認定制度です。今後は、同遺産等専門家会議委員の現地調査、二次審査（プレゼンテーション）が行われ、来年3月に国内候補地が決まります。



▲大崎耕土水田農業システム 説明図

鳥インフルエンザ防疫演習

宮城県北部地方振興事務所では、平成28年11月10日に鳥インフルエンザの発生を想定した防疫演習を加美町菜切町で実施しました。参加した131人の県職員等は、発生から捕獲、処分、消毒、埋却までの一連の作業を行いました。実際に発生した場合、72時間以内に処理を完了しなければならないので、このような演習を通し、適切な処理の流れを把握しておくことが重要になります。



▲消毒作業（消石灰散布）



▲埋却作業



▲上空から見た演習の様子

大崎地域の農業・農村（産業行政）に関する郷土研究講座

当事務所の若手職員が地域に密着したサービス・サポートを目指すことを目的として開催されている郷土研究講座の第2回（10月18日）、第3回（11月15日）現地調査が行われました。



第2回では、涌谷・鹿島台・松島方面へ訪れ、新田開発の歴史について学びました。第3回では、鳴子地区、鬼首地区で温泉開発と仙台藩境山の暮らしについて学びました。参加者は、現地調査を通して、先人の知恵や努力を知り、それらを今後どのように伝えていくべきか考えることができました。

◀涌谷町立史料館で説明を受ける様子

マイクロ水力発電を利活用した地域活性化研修会

平成28年11月30日、北部地方振興事務所と宮城県農業用水利施設小水力等発電推進協議会の両主催により、小水力発電等に係る基礎知識を習得するための研修会を開催し、97人が参加しました。第一部では、大崎土地改良区にて、内川小水力発電所、太陽光発電施設大崎発電所の概要について説明を受けた後、それぞれの施設へ移動し、現地研修を行いました。第二部では、大崎合同庁舎にて、石川県立大学生物資源環境学部環境科学科の瀧本教授の講演や、協同組合グリーンエネルギーパートナーズの石ヶ森理事長から事例発表をいただきました。



▲内川小水力発電所 現地研修

平成28年度 第3回農業農村整備事業学習会

平成28年12月13日、小牛田農林高校の農業土木コース1年生38名を対象に農業農村整備事業学習会を開催しました。この学習会は年3回実施しており、今回は高校で農業土木の農業農村整備事業についての講義を行った後、農地整備事業田尻中央2期地区において排水路の高さを測量しました。生徒のみなさんにとって、実際の工事現場での測量は今回が初めてであり、普段の授業で学んでいることを活かしながら、真剣な顔つきで取り組んでいました。



▲講義



▲工事機械について説明



▲測量実習

宮城県北部地方振興事務所農業農村整備部

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭四丁目1番1号(宮城県大崎合同庁舎内)
TEL 0229(91)0701(代)
FAX 0229(23)5014
ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-sgsin-ns/>
編集:計画調整班

